

## 実践事項「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」+1について

『耕人塾』のテーマは「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」です。地域や社会をさらに良くするためには、自分の「人間力（徳・体・知）」を磨くことと、自分にできることを実践し継続することが大切です。『耕人塾』の実践事項は「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」ですが、このことについて私の考えを述べたいと思います。

「あいさつ」とは、漢字で「挨拶」と書きます。「挨」は推す、「拶」は迫るという意味です。意識すると相手の気持ちを推しはかりながら近づくということです。つまり、時と場に応じて親しみを込めて相手に自分から近づいていくような言葉やしぐさが大切になります。あいさつの仕方ひとつで、回りが明るく温かい雰囲気になった経験があると思いますが、相手の心に届くあいさつをするにはどうすればよいかを考えて実践することが大切ですね。

「清掃」とは、きれいに掃除することです。掃除はゴミやほこりを掃いたり拭いたりして取り除き、清潔にすることですから、さらにきれいにすることです。一見きれいに見える所でも細かいほこりがあったり、隅々が汚れていたりしているものです。駅のトイレがピカピカに磨かれていると清々しい気分になり、その町を好きになることさえあります。宿泊研修では部屋の清掃などがありますので、心をこめて隅々まで清掃したいですね。

「ゴミ拾い」とは、道路や公園などのゴミを拾うことです。今は草も木もどんどん伸びる時期で、道路の草刈りがいたるところで行われています。草を刈った朝の散歩はことさら清々しい気分になりますが、残念ながら道路わきに煙草の吸い殻やペットボトル・空き缶・ビニル袋などが捨ててあります。自然の中で生かされている人間はもっと自然を大切にすることが大切だと感じています。自然に感謝しながらゴミ拾いをする爽やかな気分になりますよ。

「+1（プラスワン）」とは、「挨拶・清掃・ゴミ拾い」をどのような気持ちでやるのかを考え、各自のオリジナル（独創的）な言葉を実践事項に付け足すことです。「+1」をつくる時に大切なことは、「自分にできること（難しすぎても簡単すぎてもダメ）、楽しく取り組めること、他の人を喜ばすこと」の三つが大切です。素敵な言葉を見つけ、実践事項することが楽しくなるようなものだと思います。

『耕人塾』全体では、川開き祭りや駅前など年4回実施していますが、昨年度は自分の地域で各自の実践を取り入れてみました。その時の発表からそれぞれに特色ある取り組みがみられ、日常活動の大切さを学びました。今年度は、「プロジェクトK（あいさつ・清掃・ゴミ拾い）」を全体で取り組むだけでなく、日常の活動につなげていきたいと考えています。塾生皆さんからのアイデアを基に計画を立てたいと思います。

## 「あいさつは人としての基本」（河北新報「声の交差点」から）

6月14日（金）の名須川正伸さん（49歳、仙台市太白区会社役員）の記事を紹介します。

「毎朝、自転車で仙台市中心部に通勤しています。その途中、週に数回、五橋中の生徒たちがビニル袋を片手に周辺地域のごみ拾いをしています。それだけでも感心するのですが、擦れ違う歩行者や私のような自転車に乗っている人にも、立ちどまって「おはようございます」と、目を見て大きな声であいさつをしてくれます。私はできる限り返すようにしていますが、恥ずかしいからなのか無言で通り過ぎる人や、軽く会釈をする人などさまざまです。もう何年もこのような光景が続いており、毎朝、とても気持ち良く職場に向かうことができます。（略）おろそかになりそうなあいさつを、五橋中の生徒たちは大人に教えてくれています。良い伝統を今後も継続されることを切に願っております。」心温まる内容ですね。塾生の皆さんの実践を期待します。